

はじめに

中日同形語に関する研究が盛んに行われてきたが、まだまだ研究が足りない部分が多い。中日同形語の語義の違いをもたらす原因も多岐にわたっている。本稿では「写」のついでいる中日同形語の意味の違いについての考察を通し、その違いをもたらす原因を分析した結果、その原因の一つは漢字の多義性による、つまり、多義を持っている漢字からなる漢字熟語が、意味解釈の多くの可能性をもっていることに気づかれぬまま、捉えられてきた事実があることがわかった。このような中日同形語の意味用法と違いをもたらした原因について日本語学習者に教えれば、効率的な日本語の習得に寄与できると期待している。

1 先行研究

中日同形語に関する研究が盛んになってきたが、中日同形語の定義はまだ明確にされていない。ここでは漢字を用いた日中の共通する言葉の用法として、同形語の辞書が出版されている例などに従うことにする。しかし、「写」の同形語は、『中日两用日漢双解同形異義日語漢字词典』(1986年)、『おぼえておきたい日中同形異義語 300』(1995年)、『日漢同形異義詞词典』(2004年)などの辞書に、収録されていない。東方書店『日中同形異義語辞典』(2007年)は1400語あまりの中日同形語を扱っているが、「写」の付いている言葉は「書写」1語しか収録していない。

林玉恵の『日中語彙における日中同形語の比較研究』¹⁾(2001年)、また万玲華の『中日同字詞比較研究』²⁾(2004年)にも「写」の付いている言葉が確認されていない。「写」のついでいる同形語に関わる言及は、今の段階では、『現代若者の「写真」認識』³⁾(兒島慶治2005年)しか見つかっていない。「写」のついでいる言葉や語群に関する研究がまだない現状である。

本稿では、「写」のついでいる中日同形語に絞って、中日両国での意味用法を考察していきたい。

2 中日両国の「写」に関する言葉

筆者は中国の「漢語大辞典」や日本の「国語大辞典」などの辞書を調べた結果、それぞれ「写」のついでいる言葉が次のようにあることがわかった。なお、中国語の表記には、

簡体字を用いるようにした。

2-1 中国の「写」に関する言葉

「写」の付いている言葉について、「漢語大辞典」「辞源」などの辞書に載っている言葉だけでなく、「中国古典全録」⁴⁾に収録されている古典の文献をすべて検索した。古典文と現代文で使われる言葉と意味の異同によって、次の4種類に分類してみた。

2-1-1 古典文では使われたが、現代文では使われていない言葉。

暗写 标写 布写 钞写 陈写 攒写 独写 敷写 副写 环写 极写 课写 口写
隶写 摭写 漫写 摸写 披写 铺写 染写 镕写 濡写 施写 申写 舒写 输写
撻写 淘写 陶写 填写 条写 贴写 图写 洗写 闲写 宪写 泄写 宣写 溢写
移写 吟写 佣写 状写

写白 写副 写诚 写傲 写放 写愤 写雇 写官 写怀 写鉴 写鑑 写鞞 写录
写篆 写貌 寫妙 写目 写念 写鸟 写瓶 写染 写润 写神 写疏 写思 写似
写拓 写搨 写望 写像 写効 写效 写泄 写心 写形 写形画 写移 写韵
写曜 写影 写映 写忧 写载 写志 写筑 写注 写状

2-1-2 古典文でも現代文でも使われて、意味が変わっていない言葉。

草写 仿写 绘写 刻写 临写 描写 模写 摹写 默写 缮写 题写 抒写 拓写
填写 影写 三写易字 三写成乌

写本 写经 写景 写情 写述 写信 写意 写字 写照

2-1-3 現代文でも使われているが、意味が変わった言葉。

补写 抄写 大写 复写 连写 手写 书写 特写 眷写 听写 小写 虚写 转写
写手 写生 写实 写书 写物 写真 写着 写作

2-1-4 現代文に使われている新しくできた言葉

编写 采写 复写纸 改写 简写 密写 拼写 谱写 速写 缩写 特写镜头
写生画 在写 撰写 写稿 写境 写诗 写实派 写实主义 写字台 写字间

2-2 日本の「写」に関する言葉

日本語の中に「写」の付いている言葉の数がたくさんある。一部分は中国から伝わってきた言葉で、大部分は日本人が新しく作った言葉である。その中で「写真」に用いる意味を含んでいる言葉の数が一番多い。

2-2-1 中国から日本に伝来した言葉

2-2-1-1 中国の意味をそのまま使っている言葉

移写 印写 虚写 細写 手写 書写 抄写 鈔写 囙写 繕写 聽写 直写 転写
伝写 膳写 描写 模写 輪写 臨写 録写 写映 写影 写完 写経 写字 写出

写書 写照 写情 写本 写録

2-2-1-2 新しい意味を付け加えた言葉

複写 写意 写実 写真 写像

2-2-2 日本語にしかない言葉

映写 活写 揮写 激写 撮写 実写 摺写 浄写 書写 供養 真写 正写 生写
清写 精写 声帯模写 千写 漸写 扇面写経 速写機 的写 電子複写機 転写紙
転写石版 転写版 透写 透写紙 透写台 透写本 頓写 念写 端写本 被写界深
度 被写体 筆写 表現型模写 描写音楽 描写力 一元描写 客観描写 自然描写
心理描写 性格描写 精密描写 性欲描写 多元描写 内面描写 平面描写 複写機
複写紙 覆写紙 模写説 模写電報 連続写像 写字生 写象 写実主義 写実小説
新写実主義 写場 写植 写植機 写声 写生文 写生図 写調 写譜

青写真 色写真 顔写真 記念写真 空中写真 芸術写真 顕微鏡写真 航空写真
広告写真 高速度写真 三色写真 紫外線写真 写真家 写真館 写真師 写真測量
写真著作権 写真店 写真電報 写真銅版 写真判定 写真屋 素人写真 断層写真
心霊写真 赤外線写真 宣伝写真 全天写真機 双眼写真 着色写真 鳥瞰写真
手配写真 電子写真 電子写真法 電送写真 天体写真 天然色写真 陶器写真
扉写真 日光写真 布写真 白金写真 早撮写真 針孔写真機 引伸写真 舞台写真
報道写真 豆写真 見合写真 裸体写真 立体写真 立体写真機

2-2-3 お互いに借用関係のない、偶然に一致する言葉

筆者は中日両国の各種の辞書と書籍を調べ、それぞれの意味用法と用例の時代背景を比較し、分析した上で、次のような言葉はお互いに借用関係がないと判断した。

写完 写入 写法 遠写 試写 接写 縮写 速写 特写 乱写 略写

2-3 現在中日両国でよく使われている中日同形語

2-3-1 意味が同じである言葉

描写 描写力 客観描写 自然描写 心理描写 性格描写 平面描写 臨写 写経
写実 写実主義 写実小説 新写実主義 写本

2-3-2 意味に違いがある言葉

誤写 試写 書写 抄写 縮写 速写 騰写 特写 複写 複写紙 写字 写出
写照 写意 写真 写法

3 「写」の意味の比較

中国の『現代漢語辞典』第五版は「写」について、四つの意味⁵⁾を並べて解釈している。また、『中日辞典』第2版は「写」の意味を二つ⁶⁾にまとめて解釈している。一方で、日本の『大辞林』は単漢字「写」の意味を二つ⁷⁾しか並べていない。

以上を比較して見ると、現在の中国語の「写」の意味が日本語と違っていることがはっきり分かる。しかし、どうしてこのように大きな違いが出たか、この疑問を持ち、さらに調べる範囲を広げ、《在线新华字典》、《辞源》、《漢語大辞典》、『大漢和辞典』、『日本国語大辞典』などを引いて、それぞれの「写」に関する意味解釈⁸⁾を比較した結果、次のようなことがわかった。

- (ア)「写」の中国語での意味が日本語よりずっと多い。『日本国語大辞典』の「写」に関する解釈と『大辞林』の記述とを見ると、似ていることがわかる。《在线新华字典》には九つ、《漢語大辞典》には十六、『大漢和辞典』には十八、の意味が書いてある。
- (イ)「写」の日本語での「まねて書く」「書きうつす」の意味は明らかに中国からの影響を受けている。
- (ウ)「写」の中国語での意味変化が激しい。日本語に継承されている「まねて書く」「書きうつす」という意味は現代の中国語ではほとんど消えている。
- (エ)「写真を写す」という意味が中国語にない。

4 「写」のついでいる中日同形語の比較

次に意味に違いのある言葉について、詳しく考察していきたい。『大辞林』の意味にしたがい、二種類に分類したい。言葉の説明や用例は、中国語は主に《现代汉语词典》、《漢語大辞典》、『中日辞典』第2版から、日本語は主に『大辞林』、『大辞泉』、『日本国語大辞典』から引用している。一部の用例はインターネットで検索したものである。引用例には、筆者が適宜、訳文をつけた。

4-1 「ありのままにうつし取る」という意味を表す言葉。

誤写 実写 写意 写生 写法 写照 縮写 書写 抄写 謄写 複写 複写紙

【誤写】

中国語：古代では、印刷術が発明されていなかったとき、本を読む人は伝写するしかなかった。人の本を書き写しているうちに気づかずに間違えるのもよくある。今でも「三写易字」という成語がある。意味は何度も書き写しているうちに、字を間違えてしまう。晋・葛洪《抱朴子・遐覽》に「故諺曰：‘書三写，魚成魯，虛成虎。’」と書いてある。作業はなかなか根気が要る。文字が崩し字で書かれていくのは人間の心理だろうと思う。したがって、「虚成虎」になるのは理解できるが、「魚成魯」は納得がいかないところである。筆者は「魯」が「魚」になったかと考える。実際現在の熟語や成語を見ると、「魯魚」、「魯魚亥豕」、「魯魚帝虎」、「魯魚陶阴」、「亥豕魯魚」、「魯魚帝虎，魯魚亥豕」のように、全部「魯魚」という順番で構成されている。しかし、印刷術が発明されてから、人々は書籍を伝写しなくなり、「誤写」というのも現在「書き間違える」ことを指すことが多い。

日本語：文章などを写しまちがえること。「原本を一する」「一の多い写本」の用例のよう

に、必ず元になるものがあるのは一般的である。中国語の古い意味のままを保っているのがわかる。

【抄写】

中国語：照着原文写下来、つまり原文をそのまま書き写すという意味である。書き写す対象は原文全体またはその一部である。現在では、国語や外国語の宿題として、よく生徒に新出語や本文を抄写させるが、その場合、1回ではなく3回意所の複数回を意味している。小学校では、よく罰則として生徒に抄写させている。「抄写」の練習を通して、しっかり知識を身につけるときに用いられて、抄写させられている生徒が多いのが現状である。

例：抄写课文／本部を書き写す

把文稿抄写清楚／原稿をきれいに清書する。

把学过的生词抄写一遍／習った単語を1回書き写す

日本語：文章の一部分を書き写すこと。日本語の意味は基本的には中国語と同じであるが、文章の全体ではなく、その一部分を限定しているところが微妙に違っている。

【写意】

中国語：中国画の手法の一つ。微細な描写をせず、画家自身の精神や情趣の表現に重きを置く。

日本語：①意味、内容を書き取ること。②絵画などで、形を写すことを主にしないで、被写体の持つ内容、精神など内に秘められた美を描写すること。

【写実】

現在の用法では、中日とも「物事の実際の姿を、ありのままに、絵や文章などにうつし出すこと」という意味を表す。『表現読解国語辞典』⁹⁾に次のように説明してある。

二〇世紀に入りピカソらによってキュビズムや構造主義などが推し進められると、絵画は見たものをありのままに写実することから完全に解放された。(1)中国の古典では、実際の形態をそのまま写すという意味で用いられた。その場合、外面を写しとる、という意味に限って使われることが多かった。(2)明治二〇年代中ごろ、文学・美術の領域で、描かれた対称を〈迫真性〉を指し示す語として用いられるようになった。この時、西洋の芸術論を背景として、〈表面的な形にとどまらず、その内実までも写しとる〉という意味に変化した。

ただ、現代中国語では名詞としてしか使わない。日本語の「現代風俗を克明に一する」のような、動詞としての使い方はない。

【写出】

中国語も日本語も「文章で描写し、表現すること」という意味を表すが、ただ中国語では「絵をかき上げる」という意味もある。『日本国語大辞典』に収録されている黄庭堅の『次韻子瞻子由題鵝寂図詩』「李侯有句不肯吐、淡墨写出無声詩」の「写出」の意味はまさにそれに当たる。

【写照】

日本語の「実際の姿や形を写しとること。また、写しとったもの。肖像画。」という意味は中国の古い意味である。現代の中国語では、物事の特徴や真髄をよくとらえた描写が形容表現という意味で使われているのがほとんどである。

例：“无风三尺土，有雨一街泥”，这就是旧北京街道的真实写照。／風がなければ土が三尺積もるが、雨が降れば、泥だらけになる」、これこそ、古い北京の本当に姿だった。
百花盛开春色满园是今日文坛的写照。／百花咲き乱れて満園の春というのは今日の文壇の有様といえよう。

【写生】

中国語：景色や事物のありさまを見たままに写し取る。そのこと。絵にだけしか使わない。
日本語：[名] (スル) 景色や事物のありさまを見たままに写し取ること。絵のほか、短歌・俳句・文章についてもいう。スケッチ。『表現読解国語辞典』に

「写生」は、明治初期に西洋絵画でいうスケッチの意になった。なお、正岡子規は、明治二十七年ごろから、文芸作品一般の創作態度として「写生」を主張し、特に短歌と俳句の革新を行った。その背景には、「写生」を重視する西洋流の美術教育を受けた画家、中村不折との交流があったといわれている。¹⁰⁾

と説明している。日本語での使用範囲が中国より広いことがわかる。

【縮写】

中国語：長い言葉や文章を短く縮めて書く。「写」は「書く」意味である。

①動詞・名詞。略語を作る。略語。略称。特にローマ字表記の略称をさす場合もある。固有名詞に使われる場合が多い。

例：缩写签名 / 略式署名

②動詞。原文や原作に忠実で、テーマや主旨を変えずに、小説や文章などを短く書き直す。要約する。

例：缩写本 / ダイジェスト本

本文由长篇通讯缩写而成 / この文章は長いレポートを要約したものだ

日本語：「原図をページ内に収まるように一する」「図面を一する」の用例のように、図などをもとの大きさよりも小さく縮めて写すこと。また、そのもの。

【書写】

中国語：「書き写す」の意味をもっていたが、現在では「書く」という意味しか持っていない。

例：书写标语 / スローガンを書く

书写工具 / 書く道具

字迹书写工整 / 筆跡が整っている

日本語：二つの意味がある。①は中国語の古代の意味と同じである。②は日本語独特の意味である。

① (古くは「しょじゃ」とも) 書き写すこと。多く、文献や経文を一字一字書き写して同

じものを作ることをいう。

例：要領を云って、参考文献を書写してくる仕事である。

②小学校・中学校の国語科の科目の一つ。字を正確に速く美しく書くことを学習する。従来の「書き方」「習字」にあたるもので、昭和三三年（一九五八）の学習指導要領で改訂。四つの言語活動のうち「書くこと」が作文と書写に分けられる。

【複写】

中国語：現在では、日本語の「複写」の「用紙の間にカーボン紙をはさんで書くなどして、同一書類を2通以上作る」という意味しか使わないが、古代では、さまざまな意味があった。①同じ書籍などを一部書き写す。《四库全书总目提要》卷一百三十七「改赐名曰《永乐大典》。并命复写一部，鍍诸梓，以永乐七年十月讫工，后以工费浩繁而罢。」②前の動作に続き、また何かを書く。《绘芳录》第四回「小儒电不推逊，叫人取过笔砚，先写“送春训”三字，复写起句」《西游记传》第七回「佛祖复写六个金字“唵嘛呢叭呢吽”，叫阿傩、迦叶贴在山项头上。」③また像を鑄造する。《太平广记》卷第一百一十四「精勤艰苦，又三十年，事费复备，则又复写像焉。」④また憂いを晴らす。陆游の詩句「千里江山入倚楼，高吟聊复写吾忧。」（《陆游诗全集》卷四）と、蘇東坡の詩句「有鱼无鱼何足道，驾言聊复写我忧。」（《苏东坡全集》正文・卷六・诗九十九首）は詩經の「驾言出遊，以写我忧」という出典を利用して、憂いを除くという意味を表している。

日本語：『大辞泉』には次の三つの意味が述べてある。①写してあるものをもとにして、もう一度写すこと。「古い記念写真を一する」②用紙の間にカーボン紙をはさんで書くなどして、同一書類を2通以上作ること。また、そのもの。③複写機を用いて文書・図表などを原本どおりに写し取ること。また、写し取ったもの。コピー。「書類を一して配る」

①の意味は中国語の古典とも違う。中国語の古典では、書いたものを書き写すという意味だけで、日本語のもう一度写すという用例が確認されていないので、その意味がないと判断できる。現代の中国語では、②の意味しか使われていない。③の意味がまったくないので、日本語のこの意味を間違えやすい。

【複写紙】

中国語：カーボン紙だけを指す。

日本語：中国語より意味がずっと多い。日本国語大辞典に次の三つの意味が書いてある。①書類作成などで、用紙の間にはさんで写しをとるのに用いる紙。カーボン紙。②原図を透写したり、複写したりするときに用いる薄い半透明の紙。透写紙。トレーシングペーパー。③複写機を使って書類などを複写するときに用いる紙。コピー紙。②の意味は「覆写紙」と表記したほうがわかりやすいかもしれない。この言葉から日本人の書き写す様子を想像することができる。③の意味は「複写」の③の意味と一致している。

4-2 「物の像をスクリーンやフィルムに現し出す」という意味を表す言葉。

写真 試写 接写 速写 特写 連写

【写真】

中国語：動詞では、①人の像をかく。②実際の様子を映し出して、人に見せる。名詞では、①描いた人の姿や像。②真実の描写。事物に対する如実な描写。

日本語：①実際の様子をうつしとること。ありのままを描き出すこと。また、その像。写真。写実。②感光性物質の光化学的变化を利用して、物体の画像をつくる技術。また、その画像。一八三九年フランスのダゲールが発明。写真機のレンズを通した微量の光によってフィルム・乾板などの感光材料の上に潜像をつくらせ、これに現像・定着などの化学処理を施して陰画とし、さらにこれを印画紙に焼き付けて陽画を得る。③（一する）②にうつること。また、②をうつすこと。④活動写真の略。映画。

「写真」という言葉はもともと中国語から日本語に入った言葉であるが、江戸時代後期に日本人がこの言葉に新しい意味を与えたことについて、日本国語大辞典の語誌¹⁾の説明を参考にしたい。最近、中国では、この日本語の②の意味も、台湾の小説や写真屋の進出や日本の文化などの影響で、一般に認知されるようになった。

【試写】

中国語：ためしに書く。書いてみる。「試写」という言葉は古い用例もあるが、意味が現代と異なる。宋代の晏几道の詞《鷓鴣天》²⁾では「楽器を演奏して、声を真似てみる」という意味を表す。

手拈香笺忆小莲，欲将遗恨倩谁传。归来独卧逍遥夜，梦里相逢酩酊天。

花易落，月难圆，只应花月似欢缘。秦筝算有心情在，试写离声入旧弦。

「試写」は辞書に収録されていない言葉だが、日常生活ではよく使われている。インターネットで検索すると、「試写过童话、短篇小说和诗歌」「试写钢琴曲」のような例がある。試しに童話や短編小説、詩歌を書いたことがある、ピアノ曲を創作してみる、の意。

日本語：映画を、一般公開に先立って、関係者や批評家などに見せるために映写すること。

「新作を一する」「一会」

【接写】

中国語：続いて書く。ほかの人が書いたものの続きを書く。「接写」という言葉はまだ辞書に収録されていないが、日常的に使われている。インターネットを検索すると、多くの用例がある。

例：根据语境，仿照划线句子，接写一句关于“成功”的话。／文脈により、下線の付いている文に倣って、続いて成功に関する文を書きなさい。

空一格接写表題。／一行を空けて、続いて表題を書く。

日本語：被写体にレンズを近づけて写すこと。また、その写真。「花を一する」

【速写】

中国語：①絵画方法のひとつ。観察対象の特徴を短い時間で迅速に描く。クロッキー。②文体の一種。スケッチ風の文体。人や物事の状況を簡潔に描写し、ただちに読者にレポートする。

日本語：写真などを、すばやく写すこと。「一瞬の表情を一する」

日本国語大辞典で「クロッキー」を調べると、「絵画で、全体の感じを大まかな線や陰影で短時間にえがく技法。また、その絵。鉛筆やコンテなどを用いる。英語のスケッチに相当するが、日本では小品写生をスケッチ、略画・速写画をクロッキーとわけて用いる。速写。」と書いてある。つまり、日本語での「速写」の基本の意味は中国語の①と同じである。写真をすばやく写すという意味は敷衍されたのではないかと思われる。しかし、辞書の説明は外国人学習者にとってあいまいすぎるのではないか。

【特写】

中国語：①新闻报道的一种体裁。以文艺手法写所报道的人物，再现场景和气氛，使之有强烈的感染力。但要求完全符合事实，不容许虚构。亦为文学体裁报告文学的形式之一，写真人真事，可以在细节上作适当的艺术加工，但必须有高度的真实性。

これを解釈すると、「特別に書く」という意味になる。ルポルタージュ。文芸手法で報道する人物を描写し、場面と雰囲気を再現し、読者に強い影響力を与える。事実を客観的に叙述し、フィクションしてはいけない。報告文学の一つでもあり、実在の人と実際に起きた事件を描写し、細かいところは適当に芸術加工してもいいが、高度の真实性を持たなければならない。②（映画で）クローズアップ。大写し。

日本語：特別に写真に写すこと。話題性のある対象、撮影するのが困難な対象などを、特に力を入れて写真に撮影すること。日本語の辞書には次のような用例が確認されている。

「本紙」「本誌」「実験現場を一する」

「この写真は我が社の特写である」

【連写】

中国語：

① 字を書くとき、筆画を繋いで書く。特に草書の場合が多い。

例：草书讲究连写。(Comprehensive Chinese-English Dictionary)

草書は筆画を繋いで書くことを重んじる。

他的笔划连写的很多， 我都不大认得出来。

彼の書いた字の筆画は多くつながっているので、あまり読めない。

② 国語の熟語の発音を表すアルファベットを表記するとき、それぞれの音節の間を空けずに書く。例えば、「交通线」の「拼音」は「j i ā o t ō n g x i à n」ではなく、「j i ā o t ō n g x i à n」と書くのだ。

③連続して書く。

例：连写十余封信。

連続して十数通の手紙を書いた。

日本語：連続して写真を撮ること。辞書には「連写」という言葉はまだ収録されていないが、撮影の言葉としてよく使われている。

例：デジカメの性能に撮影間隔・連写速度が書かれています。

連写機能とは「シャッターボタンを押している間、連続してシャッターが切れる機能」です。多くの機種にこの連写機能が搭載されています。

5 「写」の付いている中日同形語の語義の違いをもたらした原因

以上のべてきたように、「写」の付いている中日同形語を考察した結果、「写」の付いている語の語義の違いをもたらした原因には三つ、あると考えられる。①中国語では「写」の意味がよく変わってきたこと、②印刷術の発明の影響があったこと、③カメラと写真技術の発明によって言葉の概念が変わったことである。

5-1 中国語での「写」の意味の変遷

漢字が中国で誕生してから、その数もどんどん増え、意味もどんどん敷衍されてきた。「写」の意味も激しい変遷の歴史をたどってきたといえる。

「写」という文字の起源について、《漢語大辞典》では次のように書いてある。

《説文》：“寫，置物也。从宀，鳥聲。”徐灝注箋：“古謂置物於屋下曰写，故从宀，蓋從他處傳於此室也。”

例文は、最初は物をほかの場所から部屋の中に物を運んで置く、という意味である。

《漢語大辞典》に並べられたほかの意味用法は全部この基本意義から敷衍されたと思われる。辞書の記述の②の「輸送」は基本意義とあまり変わらない。次いで③の「傾吐；傾述」は「心の中にある思いを次々と移動させて、叙述する」と解釈できる。さらに、④の「除；去掉」は「心の中にある不愉快な思い、憂いを移動させて、除く」という意味になったのだろう。「写憂」という言葉はしばしば歴代の詩人に詠まれた。

続けてみていくと、⑤の「尽」は「心の中にある思いを全部移動させて、忠誠などを表す」と解釈できる。⑥の「书写；誊录」は「ある書籍に書いてある文字や文章を別のところに移動させて書き写す」である。⑦の「創作；写作」とは「自分の考えを外に移動させて、書き表す」ということである。⑧の「租賃；確定某种出租或雇用关系。」という意味は、借りた物を使う場合、移動させる必要がある。また、何かを借りるとき、契約を結ぶ必要がある。契約にはお互いの思いを文字化しなければならない。サインも必要だ。たぶん「借りる契約を結ぶ」という手続きを省略して表現するところからこの意味が生まれたのだろう。この意味は一般的な使い方ではない。一部の地方に限っている方言だろう。⑨の「模仿；模拟」は「あるものを自分の近くに移動して置こうとして模ったり、楽器の演奏を通して音楽や音を真似たりする」という意味が生まれた。⑩の「用模型浇铸」は二つの解釈ができるかもしれない。一つは⑨から敷衍され、「ある人物の像をかたどる」という意味になったのだ。もう一つは金属を溶かして鋳型に注ぎ、ある人物の像を鋳造するという意味になったのだ。時々「金偏+写」と書く。⑪の「忧」と⑫の「思」は詩経の「驾言出遊，以写我忧」からの誤用かもしれない。ちなみに⑪の「忧」と⑫の「思」及び⑬の「程」と

いう意味の用例は確認されていない。

また、(二) xiè①の「同“瀉”」の「傾泻；傾注」の例として「以滄寫水」（《周禮・地官・稻人》）を挙げているが、ここの「写」も「写」の基本意義と変わらない。《周禮通釋》（四七六）に「滄を以って水をのぞく」と訓読みされている。その注に『やる。はこぶ。賈疏に云う「水を寫去す』と説明してある。「滄」とは「田尾去水大沟」つまり田んぼの末端にある排水溝のことであるので、「滄を以って要らない水を流しておいて除く」という理解が正しい。

②の「通“卸”。把东西去掉或拿下来。」の用例として、《石鼓文》の「宮車其寫」を挙げている。

《石鼓文》は唐代に発見され、造られた年代が先秦であるといわれ、それに対する研究が盛んになされている。《石鼓文》の二箇所「寫」が使われている。『鑾車篇』の「四馬其寫」と『田車篇』の「宮車其寫」である。「宮車其寫」について、郭沫若は、『宮車與戎車對舉、當是安穩之乘車。寫字舊解作卸、余意適得其反。蓋寫有流瀉之意、《周禮》『以滄寫水』是也。下言「四馬其寫、六轡驚口（一文字が欠けている）」、亦言駟馬之奔馳如流水。彼如爲卸義、則與與止同意、當言亦寫、不得言其寫矣。』¹³⁾と解釈している。

筆者も「物を卸す」という意味でここの「寫」を解釈するのはふさわしくないと思う。前述のように、郭沫若の「以滄寫水」の「寫」を「寫有流瀉之意」という解釈には賛同しかねるが、今では「四馬其寫」と「宮車其寫」を「駟馬之奔馳如流水」と解釈するよりもっといい解釈がまだ現れていない。

赤塚忠『田車篇の考釈』で、「写は、ここでは寫と同じである。寫は爽の仮字であって、美盛の意である。」と解釈している。『鑾車篇の考釈』のなかで、「写は、奕または爽の仮借である。馬色の美しいさまを形容している。『詩經』韓奕篇に「四牡奕奕」とある。」解釈している。これについて、篠田幸夫『石鼓文製作年代攷』という論文で赤塚忠の説に賛同している。筆者の考えでは、「奕奕」が二文字で現れるのは一般的で、そして、『詩經』に何回も現れているので、仮借字を使う必要がないだろう。そして、その解釈も前後の文脈に合わないのも明らかである。

明代の楊慎の《昇庵詩話（七）》に次の一節がある。

《石鼓》文：“宮車其写。”义与“卸”通。舍车解马曰写，舟车出载亦曰写。

つまり、「写」は「車馬を解き放つ」だけでなく、「舟や車に積まれたものを卸す」という意味も含んでいるのだ。この意味解釈も明らかに前後の文脈に合わない。

また、《漢語大辞典》に「写鞍」という言葉が載っている。「放松轡头。谓纵马奔驰。」と説明している。つまり、馬の轡を放して馬を早く駆けさせる。用例として、三つ挙げられている。

南朝 梁 吴均《古意》诗之三

玉鞭莲花剑，金莖流星勒。聊为路旁人，写鞍长楸北。

唐 李白《自广平乘醉走马登城楼览古书怀》诗
扬鞭动柳色，写鞚春风生。

唐 李颀《内人马伎赋》
始争锋于校场，遽写鞚于金埒。

この「写鞚」の「写」は馬を繋ぎとめられた縄を解き放つという意味を表している。この意味で《石鼓文》の「写」を解釈すれば、意味が通じるかもしれない。「馬の轡を放して、移動させ、出発させる」と解釈してもいいような気がする。

《石鼓文》はまだまだ研究する余地がある。

《漢語大辞典》に「絵をかく」「字を書く」「書を書く」「契約をする」「文章を書く」などの意味が収録されていないが、《在线新华字典（オンライン新華字典）》には収録されている。

辞書の記述説明をを総合すると、「写」の意味が多くて複雑であることがわかる。そして、その使い方も時代によって違っている。意味変化に富んでいるのは「漢字」の特徴の一つと言えよう。

5-2 印刷術の発明の影響

魯迅が《〈嵇康集〉跋》で、「自板本盛，而人始不复写书。」と唱えている。版本が盛んになってから、人々が本を書き写さなくなったということだ。

《文献通考・卷一百七十四・经籍考一》に「石林叶氏曰：唐以前凡书籍皆写本，未有摹印之法，人以藏书为贵。人不多有，而藏者精於仇对，故往往皆有善本。学者以传录之艰，故其诵读亦精详。五代时，冯道始奏请官镂板印行。国朝淳化中，复以《史记》、《前》、《後汉》付有司摹印，自是书籍刊镂者益多，士大夫不复以藏书为意。学者易於得书，其诵读亦因灭裂。然板本初不是正，不无讹误，世既一以板本为正，而藏本日亡，其讹谬者遂不可正，甚可惜也。」と記録してある。大体の意味は次の通りである。

石林葉氏が言う。唐代以前の書籍はみな写本で、印刷の方法がなかったので、人々は本を所蔵することを尊んだ。本を持っている人も少ないし、蔵書を持っている人も念入りに校正を行うので、往々にして皆善本を持っていた。学習する人が苦勞して、書き写し、精神を集中して、朗読したり暗誦したりして、その内容に詳しいのだ。五代のとき、馮道がはじめて朝廷に版を刻み印刷を行うことを申請した。唐代淳化中がまた『史記』『漢書』『後漢書』を役人に印刷させた。それから、書籍の刊行がますます多くなったので、上層の人々は書籍を所蔵する意欲がなくなった。学習者たちも本が手に入りやすいので、朗読したり暗誦したりしなくなった。しかし、版本は最初に正しい、間違いがないわけではない。世の中の人々は版本を正しいとみなし、所蔵の善本がだんだん少なくなるので、その間違いをついに正すことができないのは非常に残念である。

以上に述べているように、印刷術の発明が書写の革命を起こしたといっても過言ではない。書籍を伝写する作業は骨が折れるので、印刷術は人々を解放したかもしれない。その印刷術も版本から活字へ改善されていくので、その便利さを享受すると同時に、本を書き写さない人が増え、「写」と「写」の付いている意味も変化したのであろう。

コンピュータ時代の今では、「写」の意味も亦、変わるかもしれない。

5-3 カメラと写真技術の発明の影響

19世紀にヨーロッパで誕生したカメラと写真技術が日本に伝わってきたので、それを日本語で表現しようとしたときに、もともと肖像、人の画像を表す「写真」が意味として近かったので、転用され、英語の photograph という新しいものを表すのに新しい訳語を考える必要もなかった。その新しい意味がカメラと写真技術の進歩とともに、人々の間に定着したようである。上に並べられた、日本語にある「写」の付いている言葉の中では写真についての言葉が一番多い。写真と人々の生活と密接な関係をもっていることがうかがえる。カメラと写真技術の発明はもう一つの言葉の革命を巻き起こしたと言えよう。

現在、デジタる技術のカメラの出現がまた「写真」の意味を変えてしまった。言葉の意味はまさに時代とともに変わるのだ。言葉の意味の定着する期間が短くなるのもしかたがないことだが、外国語の学習者に、その意味の把握は難しくなるばかりではないだろうか。

6 まとめ

以上、中日同形語の「写」の付いている言葉の意味用法に対する比較を通して、意味が大きく違っていること、さらに、その違いをもたらした歴史的な原因を明らかにした。言葉は必要に応じて誕生し、言葉の意味は環境によって異なり、時代とともに変化する。「写」の中国語での意味変遷、印刷術の発明の影響、カメラと写真技術の影響を見れば、それがよくわかる。

「写」の付いている中日同形語の意味の異同が「写」の意味に大きく左右されていることもわかった。熟語を構成する一文字によって、その熟語の意味が違って来る中日同形語がほかにも多くある。これからの研究課題とし、その同形語の意味と用法を究明したい。

注

- 1) 林玉恵 (2001) 『日中語彙における日中同形語の比較研究』名古屋大学博士学位論文
- 2) 《中日同字比较研究》は万玲华が中国語で書いた華東師範大学博士学位論文であり、専門分野は「汉语语言文字学」に属する。
- 3) 兒島慶治 (2005) 『現代若者の「写真」認識』『日本学刊』 第9号香港日本語教育研究会編 p40-56
- 4) 「中国古典全録」は《经库》《史库》《子库》《集库》《专题》に分けて中国歴代 古

典善本を収録したデータバンクで、ホームページは <http://guji.artx.cn/> である。

5) 《現代汉语词典》第5版に載っている「写」に次の四つの意味がある。(日本語訳は筆者がつけたのである) ①用笔在纸上或其他东西上做字(筆やペンなどで紙のような物に字を書く)。②写作(文章や小説などを書く)。③描写(描写する)。④绘画(絵をかく)。

6) 『中日辞典』第2版(2003) 北京・商務印書館/小学館共同編集

『中日辞典』第2版は「写」の意味を次の二つにまとめて解釈している。

1. (字を)書く。(文章や作品を)作る。創作する。(人物や風景を)描写する。

次のようなさまざまな意味の目的語を取ることができる。①道具②場所③書体

2. 絵を描く。

7) 松村明(2006)『大辞林』(第3版三省堂)では単漢字「写」を次のように解釈し、言葉の例を挙げている。

1 ありのままにうつし取る。「写経・写実・写生/活写・手写・書写・謄写・筆写・描写・複写・模写」

2 物の像をスクリーンやフィルムに現し出す。「写真/映写・試写」

8) 《在线新华字典》には九つの意味が書いてある。

【动】①本义：移置；放置②输送③倾吐，倾诉；抒发④传抄地书写(汉以前只用“书”，汉以后“书”与“写”并用)⑤抄写⑥仿效；描绘⑦画⑧写作，创作⑨签订

《辞源》には六つの意味が書いてある。①移置。以此注彼。②宣洩，排除。③解，脱。

④用筆作字。⑤描摹，抄録⑥鑄鑄。

《漢語大辭典》には「写」の発音によって、次のように説明してある。

(一) xiě①移置；放置②输送③倾吐；倾述④除；去掉⑤尽⑥书写；誊录⑦创作；写作⑧租赁；确定某种出租或雇用关系。⑨模仿；模拟。⑩用模型浇铸⑪忧⑫思⑬程(二) xiè①同“瀉”。②通“卸”。③用同“泄”。

『大漢和辭典』大きく三つに分けて説明している。

(一) ①うつす ㊦ おきかへる。 ㊧ のぞく。 ㊨ はらふ。 ㊩ やる。はこぶ。そそぐ。 ㊪ ならふ。まなぶ。 ㊫ かたどる。 ㊬ かきうつす。謄鈔する。チゑがく。摹畫。②はく。③つくす。④うれへる。⑤おもふ。⑥(現)㊦ 書く。 ㊧ 舟車を雇ふ。 ㊨ 番頭 ㊩ 記入する。 ㊪ 漏らす。

(二) とく。おろす。はなす。

(三) 水をそそぐ。

『日本国語大辞典』の解釈は、次のようである。

【写=寫】

① まねて書く。書きうつす。うつる。/書写、謄写、描写、模写、写録/写誤/影写、誤写、手写、縮写、転写、伝写、筆写、複写/写意、写音、写経、写真、写字、写実、写生、写譜/写本/

② 「写真」をうつす。/映写/写植/実写、接写/写照/写場/しゃ(写)

9) ベネッセ『表現読解国語辞典』p547

10) ベネッセ『表現読解国語辞典』p547

11) 『日本国語大辞典』の「写真」に関する【語誌】

①「伊京集」に「写真（シャシン）肖像 已上ニツハ御影」と記されているように、本来は神仏や貴人などを描いた絵を指していた。江戸時代後期に、西洋の画法が蘭学者によって紹介されてからは、ありのままに描くという技法すなわち「写生」の意味でも、またその技法で描かれた絵を指すこともあった。

②江戸時代末期にありのままの姿が機械によって写された画像が舶来し、英語 photograph の訳語として、「写真」がこれに転用された。当初は「写真の絵」〔和英語林集成（初版）〕とか「写真絵」〔文明開化 - 初・下〕、「照画」〔英和字彙（第二版）〕ということもあったが、次第に「写真」に統一され、意味もカメラによって撮影された画像を表わすことに固定された。

③ ①のようなサ変動詞も一時的に見られるが、写真を自分で撮影することではなく写真にうつしてもらおう場合が多い。このことは、カメラが普及するまでは、「写真を撮る」が写真にうつしてもらおうという一義であったことと同様である。

12) 《晏几道词选》(宋) <http://guji.artx.cn/Article/11169.html>

13) 徐宝贵 (2008) 「石鼓文字考釋」《石鼓文整理研究》下 八一—六頁

参考文献

- 1 松村明 (2006) 『大辞林』第3版 三省堂
- 2 松村 明 (1998) 『大辞泉』小学館
- 3 日本大辞典刊行会編 (2002) 『国語大辞典』第二版 小学館
- 4 諸橋轍次 著 鎌田正、米山寅太郎 修訂 (1989-1990) 『大漢和辞典』大修館書店
- 5 沖森卓也、中村幸弘 (2008) 『ベネッセ表現読解国語辞典』株式会社ベネッセコーポレーション
- 6 『中日辞典』第2版 (2003) 北京・商務印書館/小学館共同編集
- 7 上野恵司、魯曉琨 (1995年) 『おぼえておきたい日中同形異義語 300』光生館
- 8 王永全、小玉新次郎、許昌福 (2007年) 『日中同形異義語辞典』東方書店
- 9 赤塚忠 (1986) 『石鼓文』 明德出版社
- 10 篠田幸夫 (1997) 「石鼓文製作年代攷：『詩経』・秦公諸器銘文との比較に於いて」『二松学舎大學論集』40, 二松学舎大学, 107-131
- 11 石川忠久 (1997-2000) 『詩経, 上, 中, 下』(新釈漢文大系:110-112) 明治書院
- 12 竹内照夫 (1971-1979) 『礼記, 上, 中, 下』(新釈漢文大系:27-29) 明治書院
- 13 徐中舒 (1987) 『漢語大辞典』二 四川辞书出版社 湖北辞书出版社
- 14 中国社会科学院语言研究所词典编辑室 (2005) 『現代漢語辞典』第5版 商務印書館
- 15 商务印书馆编辑部 (1979) 『辞源』第二分册 商务印书馆

- 16 汪大捷 (1986) 《中日两用日汉双解同形异义日语汉字词典》 中国农业机械出版社
- 17 黄力游 林翠芳 (2004) 《日汉同形异义词词典》 外语教学与研究出版社
- 18 葛洪 (晋) 抱朴子·遐览》 中国古籍全录 <http://guji.artx.cn/Article/9275.html>
- 19 楊慎 (明) 《昇庵詩話 (七)》 <http://guji.artx.cn/Article/13990.html>
- 20 鲁迅 (1913) 《〈嵇康集〉跋》《鲁迅全集》第9卷
- 21 纪昀等 (清) 《四库全书总目提要》 卷一百三十七 子部四十七
<http://guji.artx.cn/Article/18506.html>
- 22 竹秋氏 《绘芳录》 第四回 <http://guji.artx.cn/Article/25670.html>
- 23 杨致和 《西游记传》 第七回 <http://guji.artx.cn/Article/24026.html>
- 24 李昉 《太平广记》 卷第一百一十四 报应十三 (崇经像)
<http://guji.artx.cn/Article/27104.html>
- 25 陆游(宋) 《陆游诗全集》 卷四 <http://guji.artx.cn/Article/13191.html>
- 26 苏轼(宋) 《苏轼诗全集》 <http://guji.artx.cn/Article/11138.html>
- 27 晏几道(宋) 《晏几道词选》 <http://guji.artx.cn/Article/11169.html>
- 28 吕安世 《二十四史通俗演义》 <http://guji.artx.cn/Article/30539.html>
- 29 马端临 《文献通考卷一百七十四·经籍考一》 () <http://guji.artx.cn/Article/1509.html>
- 30 <http://zhidao.baidu.com/question/30957793.html>
- 31 <http://jw.dhu.edu.cn/dhu/502.html>
- 32 <http://www.nciku.com/search/zh/detail/>
- 33 <http://homepage2.nifty.com/B2ON/dc/rensyah.htm>
- 34 <http://dejikame.jp/rensyah.html>
- 35 <http://cd.kdd.cc/S/1QD/>
- 36 <http://cd.kdd.cc/R/1QE/>

なお、URL アクセスは、2009 年 2 月 20 日現在である。